

2025.9.17.Wed

テーマ「いろんな災害から身を守るためには」

講師紹介：湯城豊勝 名誉教授

湯城豊勝（ゆうき とよかつ）先生は、阿南工業高等専門学校名誉教授であり、河川工学・防災工学・生態系環境の専門家です。「ひとづくり」「かわづくり」「まちづくり」の第一人者として、長年にわたり教育・研究・地域貢献に尽力されています。工学博士、剣道五段・居合道七段という文武両道の姿勢を持ち、現在も各地で講演活動を精力的に行われています。ユーモアと温かさに満ちた語り口で、生徒たちの心に深く響くメッセージを届けてくださいました。

1. 印象に残った学年別キーワード

🏠【1年生】

コツはコツコツ 平凡を「続ける」
誰にでもできることを誰にもできないほど続ける
ボーッと生きない おにぎり型の仕事をする

📄 特徴

1年生は、自分の生活や行動を見直すきっかけとして講演を受け止めている傾向が強く、「ボーッと生きない」「平凡を続ける」など、日常の意識改革に関心が高いです。
また、「感謝の心」や「個性」など、人間関係や自分らしさへの気付きも多く見られました。

🏠【2年生】

コツはコツコツ まさかに備える ACE→汗 凡事徹底 平凡を「続ける」

📄 特徴

2年生は、努力・継続・備えに関するキーワードが多く、講演を通じて「自分の行動をどう積み重ねるか」に焦点を当てている様子が見られます。「凡事徹底」「ACE→汗」など、目標達成に向けた姿勢を意識する生徒が多く、将来への準備を始める段階にあることがうかがえます。

🏠【3年生】

コツはコツコツ まさかに備える おにぎり型の人間になる Impossible→I'm possible 働くとは「傍を楽にさせること」

📄 特徴

3年生は、進路や社会に出ることを意識しているため、働く意味・人との関わり・自分の役割に関するキーワードが多く見られます。「傍を楽にさせること」「おにぎり型の人間になる」など、社会性や協調性に関する気付きが深く、講演を人生の指針として受け止めている印象です。

学年が上がるにつれて「日常の見直し」→「努力と備え」→「社会との関わり」へと、受け止め方が成熟していく様子が見て取れます。

2. 生徒の言葉 NO.1「～と思ったから」具体例（抜粋）

「～と思ったから」という表現は、生徒が自分の考えを素直に言葉にしている証であり、講演会を自分ごととして受け止めていることがよく伝わってきます。

🏠【1年生】

何事にもコツコツと取り組むことでそれが自分にとってコツになると思ったから。

感謝の心は自分の気持ちを前向きにしてくれるだけでなく、周りの人との関係を良くする力もあると思います。
物事を細かくしっかり見えるようになってしまったから。

🏠【2年生】

なんでもコツコツすることが大事だと思ったからです。今日からコツコツと頑張ろうと思います。

毎日諦めず、努力しようと思ったからです。

災害はまさかのことが起きるから

🏠【3年生】

色々なことに言えると思ったから

私自身がネガティブのため、一つ一つのことに落ち込まないようにしたいと思ったから。

コツコツ努力することで掴めるコツがあると思ったから。

4. おわりに

湯城豊勝名誉教授による講演は、生徒たちの心に深く響く時間となりました。防災というテーマを通じて、人生の歩み方や働き方、そして人との関わり方までを考えるきっかけをいただきました。会場では、生徒たちが真剣な表情で耳を傾け、メモを取りながら「自分にできることは何か」を考えている様子が見られました。特に「誰にでもできることを誰にもできないほど続ける」「Impossible が I'm possible になる」といった言葉には、多くの生徒が感銘を受けていました。

湯城先生の語り口は、ユーモアと温かさに満ちており、難しい内容もわかりやすく、生徒たちの心にずっと届くものでした。防災の話にとどまらず、「人としてどう生きるか」「どう働くか」という問いかけが、これからの進路や生き方に大きな影響を与えることでしょう。湯城豊勝名誉教授には、心より感謝申し上げます。先生の言葉は、生徒たちの人生の指針となり、今後の学びや挑戦の原動力となるはずです。

